

# JWFファンド2019 実施概要

## 1. シエラレオネ

- 団体: Rural Agency for Community Action Programme (RACAP/SL) (#227)
- 期間: 2019年10月～2020年3月
- 実施地: シエラレオネ、南部州
- 費用: 1,454ドル (JWFファンド1,000ドル、受益者254ドル、実施団体200ドル)
- 受益者数: 659人 (女性235人、男性107人、子ども317人)
- 実施地の水問題: 2014年にユニセフの支援で建設されたハンドポンプ付き井戸は故障しており、修理が必要。乾期のピークには完全に干上がるため、女性や子どもを含むバオマ村の住民たちは、村から1.6キロ離れた場所にある表流水に依存している。この水源は安全ではない。プロジェクト前、プジェフン地区健康管理チームの報告によると、バオマ村の女性と子供の下痢、赤痢、腸チフスの発症が非常に多い。入浴にこの水を使用すると皮膚感染症になる子どももいるほか、水を汲むために水源までの草木の茂った道中で蛇にかまれる可能性がある。
- 主な実施内容: 初回ミーティングの実施、既存ハンドポンプ井戸1基の修繕、管理委員会の再編成とトレーニング、水と衛生に関する意識啓発ミーティング、水質検査、その他 (定期的なプロジェクトモニタリング、WASH基金の設立とルール決め)



保護されていない水源から水を汲む授乳期の女性  
(プロジェクト前)



ハンドポンプを修理する  
技術者とRACAPのボランティア

# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 1. シエラレオネ

2021年3月現在

### 【現状】

- **ハンドポンプ**…故障などはなく、現在も使えている。
- **維持管理**…村の関係者と協力しながら訓練を受けたWASH委員会が行っている。毎月受益者から使用料を徴収し、将来の修繕費用として積み立てている。

### 【変化】

- **病気の減少**…汚染された水の使用による皮膚病や腸チフスなどの病気の減少を住民たちが実感している。
- **使用ルール**…持続可能に使用できるよう、WASH委員会が使用ルールを設け、毎月受益者は使用料を支払っている。破った際の罰則もあるため、住民たちはルールを守って使っている。
- **衛生習慣の実践**…衛生に関する意識が根付いており、住民の約7割が自宅内の清掃などを実践している。

### 【その他】

- 近隣の安全な水源の無い村の住民たちもバオマ村に集まるようになり、使用料の徴収などについて、区長や村長、WASH委員会などが協議している。



# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 1. シエラレオネ

2021年3月現在

### 現場からの声（抜粋）



Dauda Rogersさん  
(53歳、バオマ村の村長)

良い変化として、この地域の全ての世帯で衛生習慣が向上しています。逆の変化としては、安全な飲み水がない周辺地域の住民も修繕したハンドポンプから水を得ています。  
この村では、特に女性と子どもたちの健康面が改善しています。ハンドポンプの修繕後、下痢や赤痢、腸チフス、皮膚病などの病気が大幅に減りました。住民たちは病気の治療のために交通費や医療費を支払っていましたが、ハンドポンプが修繕されたことで出費が減りました。現在、村人たちは周辺地域と共に様々な行事を開催しています。

また、WASH委員会のメンバーたちは修繕したハンドポンプを持続可能にするため、ポンプの管理やバオマ村の衛生状況の衛生促進の監視、村人や関係者と協力して毎月の利用料の支払いを含む地域の細則の施行など、様々な役割を担っています。



Hawa Massaquoiさん  
(18歳、修繕したハンドポンプの利用者)

ハンドポンプを毎日使っています。家族のために安全な飲み水を得ることが出来て嬉しいです。しかし、周辺地域の人たちも集まるので、いつも混雑しています。今はバオマ村で衛生促進担当の一員であることを誇りに思っています。WASH委員のメンバーと協力し、いつも人々に手洗いを習慣とするようになどを促しています。プロジェクト完了後、下痢や赤痢、腸チフス、皮膚病などの病気が特に妊婦や子どもたちを中心に急激に減少しました。